共同研究

（二〇一四年四月一日～九月三〇日）

昭和戦後期における日本映画史の再構築

（研究代表者　谷川建司、幹事　細川周平）

〔共同研究員名〕

晏妮、板倉史明、井上雅雄、小川順子、木下千花、木村智哉、河野真理江、須藤遙子、冨田美香、中村秀之、西村大志、柳下毅一郎、北浦寛之、長門洋平

〔海外共同研究員〕

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年四月二六日

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ「X年後：米国パブリック・ディプロマシーと戦後原子力映画」

須藤遙子「自衛隊等協力映画研究――一九五〇～六〇年代を中心に」

谷川建司「海外輸出向けコンテンツとしての怪獣映画と日本映画輸出振興協会の活用」

井上雅雄「ポスト占領期における映画産業と大映の企業経営」

小川順子「東映スター中心主義とファンとの関係が作り出した功罪：市川右太衛門から大川橋蔵へ」

冨田美香「一九五〇年代京都における映画興行の様態――アトラクションつき興行を中心に（仮）」

長門洋平「初期角川映画のメディア戦略とレコード産業――薬師丸ひろ子を中心に（案）」

木下千花「映倫の成立と妊娠映画（映倫の改組と業界内自

主規制の論理）」
中村秀之「映画批評と映画産業の関係についての知識社会学的研究――一九五〇年代後半から六〇年代前半における佐藤忠男の活動を中心に」
板倉史明「一九六〇年代におけるスタジオシステムの崩壊と諸ジャンルの勃興」
北浦寛之「映画会社のテレビを利用した不況対策」
晏　妮「昭和戦後期の新東宝映画とアジア（中国、香港）」
柳下毅一郎「大蔵貢と新東宝映画に見る大衆感覚」
河野真理江「『リバイバルもの』と『看護婦』」
西村大志「サラリーマンへの憧れとその喪失―観客のまなざしを通して―」
二〇一四年四月二七日
ディスカッション
〈第二回研究会〉
二〇一四年六月二八日
板倉史明「一九六〇年代後半から一九七〇年代におけるピンク映画の製作体制―神戸映画資料館所蔵の葵映画資料を活用して」
須藤遙子「一九五〇～六〇年代の『自衛隊協力映画』途中報告…」
二〇一四年六月二九日
井上雅雄「日活の製作再開と『五社協定』―ポスト占領期における企業間競争の変化―」
〈第三回研究会〉
二〇一四年八月三〇日
谷川建司「海外輸出向けコンテンツとしての怪獣映画と日本映画輸出振興協会（輸振協）の活用」
木下千花「映倫改組と妊娠映画（業界内自主規制と外国映画配給）」
二〇一四年八月三一日
河野真理江「リバイバルもの―リメイク、アダプテーション、『看護婦』」

人文諸学の科学史的研究
（研究代表者　井上章一、幹事　瀧井一博）
〔共同研究員名〕
今谷明、上島享、上村敏文、鵜飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小澤実、小路田泰直、斎藤成也、佐藤雄基、関幸彦、

高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、永岡崇、林淳、シルヴィオ・ヴィータ、藤原貞朗、安田敏朗、若井敏明、荒木浩、伊東貴之、大塚英志、倉本一宏

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年七月二四日

永岡　崇「教祖と欲望の系譜学―異端　特高　変態心理」

林　　淳「高取正男と宮田登―アカデミック民俗学の東西」

二〇一四年七月二五日

上村敏文「ルターの宗教改革から無教会まで―プロテスタントを中心として」

井上章一「宗教を人文諸学はどうあつかってきたのか―考古学と建築史を中心に」

戦争と鎮魂

（研究代表者　牛村　圭、幹事　ジョン・ブリーン）

〔共同研究員名〕

今泉宜子、岩崎徹、大東和重、加藤めぐみ、川村覚文、川本玲子、金志映、古田島洋介、小堀馨子、佐伯順子、竹村民郎、等松春夫、永井久美子、西原大輔、眞嶋亜有、吉井文美、吉田（古川）優貴、稲賀繁美、倉本一宏、末木文美士、松田利彦、劉建輝、磯前順一、郭南燕、徐載坤

〔海外共同研究員〕

平松隆円、堀まどか

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年七月二六日

討論「『戦争と鎮魂』をめぐって」

画像資料（絵葉書・地図・旅行案内・写真等）による帝国域内文化の再検討

（研究代表者　劉　建輝、幹事　北浦寛之）

〔共同研究員名〕

安藤潤一郎、井村哲郎、上垣外憲一、岸陽子、呉孟晋、小林茂、姜克実、白幡洋三郎、鈴木貞美、戦暁梅、単援朝、塚瀬進、根川幸男、松宮貴之、森田憲司、李相哲、劉岸偉、伊東貴之、稲賀繁美、井上章一、松田利彦、森洋久、石川肇、陳其松

〔海外共同研究員〕

王中忱、徐興慶、孫江

〔所長裁量経費による招聘研究員〕
呉京煥、蔡敦達、鄭在貞、陳凌虹、林志宏、柳書琴
〔研究発表〕
〈第一回研究会〉
二〇一四年七月一一日
小林　茂「東アジアにおける『帝国地図学』（Imperial Cartography）の展開と外邦図」
根川幸男「画像資料から見る近代日本の南米移民」
二〇一四年七月一二日
秦　剛「中日の知をつないだ上海内山書店」
綜合討論

夢と表象―その統括と展望

（研究代表者　荒木　浩、幹事　マルクス・リュッターマン）
〔共同研究員名〕
安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、鍛治恵、加藤悦子、河東仁、木村朗子、笹生美貴子、仙海義之、高橋文治、立木宏哉、玉田沙織、林千宏、平野多恵、福島恒徳、藤井由紀子、松薗斉、松本郁代、箕浦尚美、室城秀之、伊東貴之、倉本一宏、早川聞多、榎本渉、郭南燕、丹下暖子、中川真弓
〔海外共同研究員〕
ヨーク・B・クヴェンツァー、アイヴ・コヴァチ、李育娟
〔研究発表〕
〈第一回研究会〉
二〇一四年七月一三日
ゲルガナ・ペトコヴァ「日本本格昔話における夢：その分類と役割」

おたく文化と戦時下・戦後

（研究代表者　大塚英志、幹事　北浦寛之）
〔共同研究員名〕
浅野龍哉、板倉史明、内田力、大野修一、香川雅信、菊地暁、キム・ジュニアン、木村智哉、嵯峨景子、須藤遙子、鶴見太郎、冨田美香、中川譲、藤岡洋、細馬宏通、牧野守、室井康成、山本忠宏
〔海外共同研究員〕
秦剛、マーク・スタインバーグ
〔研究発表〕
〈第一回研究会〉

二〇一四年五月二四日
大塚英志「ディズニーとエイゼンシュテインの野合」
秦　剛「鉄扇公主と東アジアアニメーション研究」
〈第二回研究会〉
二〇一四年七月二〇日
山本忠宏「昭和初頭の児童まんが作品における『見開き』と『カメラ』―田河水泡『のらくろ』と大城のぼる『汽車旅行』を中心に―」
牧野　守「映画学と資料」
聞き手：大塚英志

昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析――ザ・タイガースの研究

（研究代表者　磯前順一、幹事　井上章一）
〔共同研究員名〕
浅尾雅俊、飯田健一郎、小野善太郎、黒崎浩行、永岡崇、中村俊夫、藤本憲正、松本清、水内勇太、倉本一宏、細川周平、北浦寛之、エリザベッタ・ポルク、光平有希
〔研究発表〕
〈第一回研究会〉
二〇一四年四月一九日
黒崎浩行・中村俊夫「単行本の企画について」
小野善太郎・黒崎浩行「ザ・タイガース／ディスコグラフィーおよびコラムについて」
水内勇太「ファン投票にみるザ・タイガース」
飯田健一郎「ザ・タイガースをめぐる京都歩き」
黒崎浩行・飯田健一郎・水内勇太「雑誌記事目録作成について」
光平有希「ザ・タイガースと平和思想」
〈第二回研究会〉
二〇一四年六月一四日
黒崎浩行・中村俊夫「単行本の企画について」
磯前順一「ザ・タイガース研究史」
小野善太郎・黒崎浩行「ザ・タイガース／ディスコグラフィーおよびコラムについて」
水内勇太「ファン投票にみるザ・タイガース」
光平有希「ザ・タイガースと平和思想」
磯前礼子「ザ・タイガースのコスチュームについて」
北浦寛之「ザ・タイガースの映画について」
浅尾雅俊・エリザベッタ・ポルク・安仲佳代「ザ・タイ

ガース研究文献解題」

〈第三回研究会〉

二〇一四年八月二日

黒崎浩行・磯前順一「出版について」

磯前礼子「ザ・タイガースの衣装の変遷について（完成版）」

北浦寛之「ザ・タイガースと映画について（完成版）」

光平有希「ザ・タイガースと平和思想（完成版）」

浅尾雅俊「ザ・タイガース研究文献（完成版）」

水内勇太「人気投票に見るザ・タイガース（完成版）」

小野善太郎「ザ・タイガースとザ・フォーク・クルセダーズ（完成版）」

黒崎浩行・飯田健一郎「京都歩きの完成に向けて」

黒崎浩行・水内勇太・飯田健一郎・光平有希「ザ・タイガース紙媒体露出記録リスト（完成版）」

黒崎浩行・水内勇太・飯田健一郎「ザ・タイガース年譜」

小野善太郎・黒崎浩行「ディスコグラフィー」

磯前順一・中村俊夫「原稿について」

日本の軍事戦略と東アジア社会―日中戦争期を中心として―

（研究代表者　黄　自進、幹事　劉　建輝）

〔共同研究員名〕

相澤淳、浅野豊美、家近亮子、井上寿一、王柯、加藤聖文、黒沢文貴、小菅信子、佐藤卓己、澁谷由里、姜克実、鈴木多聞、田嶋信雄、段瑞聡、戸部良一、波多野澄雄、服部龍二、馬暁華、松浦正孝、松重充浩、劉傑、鹿錫俊

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年七月五日

浅野豊美「ミャンマーから見た日中戦争―北ビルマ・雲南戦線と一号作戦の関係を中心に」

黄　自進「満洲国成立初期における社会的基盤」

二〇一四年七月六日

段　瑞聡「盧溝橋事件と日中戦争の全面的展開―『蔣介石日記』から読み解く」

加藤聖文「日中戦争と満洲国の対応―日満支経済ブロックの破綻」

〈第二回研究会〉

二〇一四年八月三〇日

相澤　淳「日中戦争の展開と日本海軍」
姜　克実「小寨村襲撃についての実証的研究―『平型関大捷』の真相に迫る」
二〇一四年八月三一日
劉　傑「日中の相互認識と日中戦争――外交官を中心に」
鈴木多聞「『近衛日記』について――近衛文麿と日本の『終戦』」

日本仏教の比較思想的研究

（研究代表者　末木文美士、幹事　稲賀繁美）

〔共同研究員名〕

阿部仲麻呂、井上克人、魚住孝至、岡本貴久子、沖永宜司、嘉指信雄、坂井祐円、坂本慎一、佐藤弘夫、島薗進、ミシェル・ダルシエ、永井晋、中島隆博、西平直、西村玲、モリー・ヴァラー、シルヴィオ・ヴィータ、藤田正勝、前川健一、吉永進一、米田真理子、阿部泰郎、滝澤修身、ランジャナ・ムコパディヤーヤ、ジェームズ・マーク・シールズ、アントン・セビリア、高橋勝幸

〔海外共同研究員〕

アンナ・アンドレーワ、鄭灝、許祐盛

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年四月二六日

井上克人「正中の宗論とその背景」
永井　晋「〈東洋哲学〉とは何か―〈禅〉から〈密教〉へ―」
ハヨ・クロンバッハ「World Philosophy and International Peace in the Context of the Axial Age」

〈第二回研究会〉

二〇一四年六月一四日

シンポジウム「日本仏教批判」
末木文美士「趣旨説明」
ジェームズ・マーク・シールズ「仏教と唯物論の再考」
松本史朗「京都学派の仏教理解について―批判的考察―」
ブライアン・ビクトリア「護国仏教は仏教やいなや？」
コメント：佐々木閑
討論
総括：山田奨治

〈第三回研究会〉

二〇一四年九月二〇日

岡本貴久子「帝都復興と『記念植樹』―近代造林学にみる

緑化の方法とその思想―」
パネル「中世の身体論」
司会：末木文美士
阿部泰郎「中世顕密仏教における宗教的身体―五蔵曼荼羅と管弦音義―」
米田真理子「栄西の思想に見られる宗教的身体観―『喫茶養生記』を中心に―」
コメント：魚住孝至「近世思想の立場から」
コメント：嘉指信雄「近代哲学の立場から」
討論

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正：過去の検証と将来への提言

（研究代表者　稲賀繁美、幹事　牛村　圭）

〔共同研究員名〕

テレングト・アイトル、今泉宜子、鵜戸聡、大西宏志、岡本光博、小川さやか、小倉紀蔵、鞍田崇、呉孟晋、小崎哲哉、菰田真介、近藤高弘、澤田敬司、白石嘉治、戦暁梅、全美星、多田伊織、千葉慶、張競、中村和恵、西田雅嗣、西原大輔、二村淳子、波嵯栄ジェニファしょう子、橋本順光、林洋子、範麗雅、平松秀樹、平芳幸浩、藤原貞朗、シルヴィー・ブロッソー、松原知生、クリストフ・マルケ、三原芳秋、本浜秀彦、山中由里子、山本麻友美、與那覇潤、マシュー・ラーキング、李建志、滝澤修身、山田奨治、劉建輝、磯前順一、榎本渉、フレデリック・クレインス、森洋久、王成、長門洋平、朴美貞

〔海外共同研究員〕

大橋良介、デンニッツァ・ガブラコヴァ

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年四月一九日

討議「稲賀繁美『絵画の臨界：近代東アジア美術史の桎梏と命運』名古屋大学出版会、二〇一四年一月一四日刊行」

討議「服部正・藤原貞朗『山下清と昭和の美術「裸の大将」の神話を超えて』名古屋大学出版会、二〇一四年二月一五日刊行」

討議「松原知生『物数寄考　骨董と葛藤』平凡社、二〇一四年三月七日刊行」

二〇一四年四月二〇日

二村淳子「美術における『極東』―ラファエル・ペトルッチとベトナム美術―」

〈第二回研究会〉

二〇一四年五月一七日

文化における海賊研究の現状について

（一）歴史的展望：「大航海時代」から「国際法」の成立へ

（二）東西商品交易路の確立と金融体制：密貿易の実態解明へ

（三）著作権／複製権と「海賊行為」：比較法社会学の可能性

（四）商品／情報における「海賊版」研究にむけて

二〇一四年五月一八日

鈴木洋仁「『平成論』をめぐって」

〈第三回研究会〉

二〇一四年六月二二日

稲賀繁美「『時のうつわ・魂のうつし』パリ日本文化会館公演会・セミナーにむけて」

稲賀繁美「『海賊史観の提唱』version-up 版」

中村和恵「オミヤゲ――海賊的領域としての解釈提案」

二〇一四年六月二三日

小倉紀蔵「『絵画の臨界』における躍度あるいは加加速度」

〈第四回研究会〉

二〇一四年七月二〇日

鵜戸　聡「島嶼的：列島・群島・孤島の想像域」

千葉　慶「盗まれた『自画像』―安本末子『にあんちゃん』と二〇世紀日本の植民地主義―」

橋本順光「触手の移りと写し？　タコとイカの表象をめぐる引用と流用」

二〇一四年七月二一日

平松秀樹「タイにおける日本への視線をめぐって―二〇世紀初頭よりの日本イメージの変遷―」

〈第五回研究会〉

二〇一四年九月六日

多田伊織「ネットの海は無法か―インターネットにおける〈海賊〉行為について」

白川芳夫「地域でアートをやる―マイノリティ、マーケット、贈与」

林　洋子「美術品の『オリジナリティ』のゆらぎについて、考える―再制作、死後鋳造、そして修復」

二〇一四年九月七日
東　悦子「〈渡航案内〉にみる船旅と異文化適応の準備」
根川幸男「戦前期移民船における教育と逸脱」

万国博覧会と人間の歴史――アジアを中心に

〔研究代表者　佐野真由子、幹事　井上章一〕
〔共同研究員名〕
石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、鵜飼敦子、江原規由、川口幸也、神田孝治、澤田裕二、寺本敬子、中牧弘允、芳賀徹、林洋子、増山一成、武藤秀太郎、橋爪紳也、稲賀繁美、瀧井一博、ジョン・ブリーン、劉建輝、朴美貞
〔海外共同研究員〕
青木信夫、岩田泰、ウィーベ・カウテルト、シビル・ギルモンド、徐蘇斌
〔研究発表〕
〈第一回研究会〉
二〇一四年五月一〇日
武藤秀太郎「南洋勧業会、大東亜戦争博覧会、上海万国博覧会」
川本真浩「『他者』との『であい』と『まなざし』―植民地・インド博覧会（一八八六年、ロンドン）とムカルジ」
伊藤奈保子「ＳＡＴＳＵＭＡを広げた陶工　第十二代沈壽官」
二〇一四年五月一一日
三浦　展「ブリュッセル万博と原子力の平和利用」
井上章一「女看守の時代―コンパニオン前史をふりかえる―」
〈第二回研究会〉
二〇一四年七月一二日
岩田　泰「上海万博及び麗水万博日本館から見た日本の博覧会行政」
中牧弘允「中空構造で解く千里ニュータウンと大阪万博」
芳賀　徹「岩倉使節団が見たウィーン万博」
二〇一四年七月一三日
武藤夕佳里「並河靖之と万博―並河七宝と巴里庭をめぐる人々―」
ウィーベ・カウテルト「景福宮から朝鮮博覧會場への空間変貌」
堺井啓公「『食料』がテーマの二〇一五ミラノ国際博覧会

日本館出展とこれからの我が国の博覧会への取り組み方針について」

植民地帝国日本における知と権力

〔研究代表者　松田利彦、幹事　瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

飯島渉、小野容照、岡崎まゆみ、加藤聖文、加藤道也、川瀬貴也、河原林直人、栗原純、洪宗郁、愼蒼健、通堂あゆみ、長沢一恵、春山明哲、松田吉郎、宮崎聖子、やまだあつし、李昇燁、中生勝美、稲賀繁美、劉建輝、朴暎美

〔海外共同研究員〕

陳姃湲、山本浄邦、李炯植

〔所長裁量経費による招聘研究員〕

何義麟、顔杏如、呉叡人、宋炳巻、鄭駿永

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年四月二七日

宮崎聖子「在台ジャーナリスト　田中一二について」

飯島　渉「書評　『地域社会から見る帝国日本と植民地』第Ⅵ章（都市と衛生・娯楽）」

川瀬貴也「植民地朝鮮における天道教幹部の対日協力の論理」

松田利彦「服部宇之吉と京城帝国大学の創設」

〈第二回研究会〉

二〇一四年七月二七日

山本浄邦「尹雄烈と光州実業学校　東本願寺立光州実業学校設立への協力の背景」

李　昇燁「細井肇とまぼろしの『東方文華大学』」

井上弘樹「杜聡明と台北帝国大学」

林　暎美「服部宇之吉と京城帝国大学支那哲文学科―服部宇之吉の『人脈』を中心として」

「心身／身心」と「環境」の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―

〔研究代表者　伊東貴之、幹事　榎本　渉〕

〔共同研究員名〕

青木隆、新井菜穂子、井上厚史、魚住孝至、恩田裕正、垣内景子、片岡龍、橋川智昭、権純哲、黒住眞、桑子敏雄、河野哲也、小島毅、鍾以江、鈴木貞美、関智英、銭国紅、高橋博巳、竹村英二、竹村民郎、田尻祐一郎、陳継東、陳

健成、土田健次郎、永冨青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、末木文美士、ジョン・ブリーン、劉建輝、フレデリック・クレインス、山村奨

〔海外共同研究員〕

黄海玉、フレデリック・ジラール、張翔、手島崇裕

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年五月一〇日

山村　奨「近代日本の陽明学理解」

李　梁「新井白石の漢学と西学—朱子学的『合理主義』と真理概念の普遍性において—」

楊　際開「清末変法から辛亥革命まで——日本的な要因を手掛かりとして」

二〇一四年五月一一日

片岡　龍「一六世紀後半から一七世紀初めの朝鮮の身心観—李退渓・盧守慎・許浚・張顕光を中心に—」

総合討論

〈第二回研究会〉

二〇一四年七月二六日

李　亜「梁啓超から見る陽明学と志士精神とのつながり（一）—尚武」

光平有希「古代中国における音楽療法思想—道教と儒教を中心に—」

手島崇裕「日宋の対外交渉からみた『仏教』」

榎本　渉「江戸前期僧伝編纂の思想—明末清初仏教の影響を中心に—」

二〇一四年七月二七日

陳　健成「明代『尚書』研究の文献的な検討」

林　文孝「阮元『論語論仁論』の評価をめぐって」

魚住孝至「近世日本における武道文化の成立過程とその身心—修行的な性格について—中国武術、朝鮮武芸との比較を踏まえながら」

マンガ・アニメで日本研究

（研究代表者　山田　奨治、幹事　荒木　浩）

〔共同研究員名〕

飯倉義之、石田佐恵子、伊藤慎吾、伊藤遊、岩井茂樹、岡本健、金水敏、白石さや、西村大志、安井眞奈美、山中千恵、山本冴里、油井清光、横濱雄二、吉村和真、谷川建

司、北浦寛之、高馬京子、朴順愛、秦剛、小泉友則

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年五月三一日

作品検討「山田芳裕『へうげもの』」

紹介者：谷川建司

二〇一四年六月一日

秦剛さんを囲む会

討論「最近の中国でのマンガ・アニメと日本研究をめぐる状況」

〈第二回研究会〉

二〇一四年七月一九日

作品検討「矢沢アイ『NANA』（二〇〇〇～）」

紹介者：高馬京子

二〇一四年七月二〇日

スクリーニング&ディスカッション

上映作品：TVアニメ「ちはやふる」（二〇一一～一二）

新大陸の日系移民の歴史と文化

（研究代表者　細川周平、幹事　瀧井一博）

赤木妙子、アンジェロ・イシ、一政（野村）史織、粂井輝子、栗山新也、小嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、高木（北山）眞理子、滝田祥子、根川幸男、日比嘉高、松岡秀明、水野真理子、フェリッペ・アウグスト・ソアレス・モッタ、物部ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、早稲田みな子、高橋勝幸

〔海外共同研究員〕

エドワード・マック、森幸一

〔共同研究員名〕

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年五月一〇日

松岡秀明「窓としての短歌：ブラジルの人々は、なぜ日本の短歌コンクールに応募するのか？」

柳田利夫「ペルー日系社会における『和食』とアイデンティティ」

二〇一四年五月一一日

森　幸一「サンパウロ市における日本食外食業の成立と変遷―非日系ブラジル人の受容プロセス―」

スエヨシ・アナ「日本における日系ペルー人の日系人らし

さVSペルーらしさ」

〈第二回研究会〉

二〇一四年七月一九日

粂井輝子「アメリカ合衆国短詩型文学考―下山逸蒼を中心に」

二〇一四年七月二〇日

高木（北山）眞理子「戦前のハワイ島における日系コミュニティの文芸活動―主にヒロ蕉雨会の活動から見る―」

フェリッペ・アウグスト・ソアレス・モッタ「少年時代の思い出を書き続けること―半田知雄の少年時代の記述を中心に―」

〈第三回研究会〉

二〇一四年七月二四日

沖縄県立公文書館見学

移民研究者との意見交換会

二〇一四年七月二五日

レクチャー「沖縄からの近代移民の歴史等」

名護市「ブラジル村」仲尾次訪問、名護市史編纂室外見学

二〇一四年七月二六日

レクチャー「戦後移住の事例」等

日本大衆文化とナショナリズム

（研究代表者　朴　順愛、幹事　山田奨治）

〔共同研究員名〕

市川孝一、井上祐子、須藤遙子、全美星、竹内幸絵、土屋礼子、寺沢正晴、油井清光、尹健次、吉田則昭、谷川建司、朴美貞

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一四年五月一七日

研究テーマ紹介および研究のあらまし発表

二〇一四年五月一八日

朴　順愛「日本のスポーツ・ナショナリズム―プロレスラー力道山を中心に―」

〈第二回研究会〉

二〇一四年七月五日

資料検討会

二〇一四年七月六日

朴　順愛「三国志と日本文化」

〈第三回研究会〉
二〇一四年八月二日
谷川建司「茶の湯文化の政治性―茶の湯文化をポピュラー・カルチャーで扱うことの政治性」
須藤遙子「産官民のナショナル化：『ガールズ&パンツァー』を事例として」
二〇一四年八月三日
竹内幸絵「戦後日本の広告と視覚表現における『日本的モチーフ』とナショナリズム―一九五〇年代から一九七〇年まで―」

基礎領域研究

韓国語運用の基礎／応用（継続）
代表者　松田利彦
概　要　研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

近世風俗未公刊資料解読（継続）
代表者　早川聞多
概　要　センター所蔵の近世風俗資料の解読および変体仮名の解読演習を行う。

古文書研究（継続）
代表者　笠谷和比古
概　要　前近代の草書文字で記された古文書や日記・記録などの読解を行う。

フランス語運用の基礎／応用（継続）
代表者　稲賀繁美
概　要　フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせて必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

中国語運用の基礎／応用（継続）
代表者　郭　南燕
概　要　研究その他の業務で中国語を必要とする人に対して、中国語運用の基礎を実践的に訓練し、会話、読解、聴解の習得を目的とする。

日本宗教史基礎研究（新規）
代表者　末木文美士
概　要　日本宗教史に関する基礎的な問題に関して討議し、必要に応じて重要な文献の講読を行う。